

平成 20 年度 教育 研究 業績 書

氏 名 湯川 隆子

最終学歴	1974年3月京都大学大学院教育学研究科博士課程(教育方法学専攻)単位取得満期退学			
取得学位	教育学修士			
所属学会	日本心理学会、日本教育心理学会、日本発達心理学会、日本社会心理学会、日本家族心理学会、日本グループダイナミクス学会、SRCD(The society for Reaserch of Child Development)、ISSBD(The International Society for the Study of Behavioural Development)			
現在の専門分野	発達心理学 ・ 社会心理学			
研究課題	ジェンダーの視点から見た生涯発達心理学			
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 日本の男性の心理学 もう一つのジェンダー問題	共同	2008年 6月	有斐閣	柏木恵子・高橋恵子(編)他執筆7名。湯川担当部分：第2章「ジェンダー意識の発達 男らしさもつくられる 」を高橋と共同執筆。男らしさの特質を解説し、男らしさも女らしさ同様、社会によって作られていくことを論述し、これら乗り越える途を示唆したもの。53～73頁
(学会発表) (1)Psychological Androgyny and Successful Aging in Adults from Middle to Old Age(中・高齢者のジェンダー特性とサクセフル・エイジング)(ポスター発表)	単	2008年 7月	ISSBD(国際行動発達学会)2008大会(ドイツ・ブルツブルグ)	高齢者の両性具有的なジェンダー特性とサクセフル・エイジングの関連性を面接によって事例的に検討したものの第3報告
(2)性格特性語に対する連想反応の経年変化 テキストマイニングによる分析 (ポスター発表)	共同発表	2008年 11月	日本社会心理学会49回大会(鹿児島大学・志學館大学・鹿児島女子短期大学)	青年を対象に得られた性格特性語に対する連想反応語における約20年を隔てた経年変化を、テキスト・マイニングの分析手法を用いて分析した一連の研究の第3回目の報告 (清水裕土との共同発表),(発表論文集 Pp.268-269)
(その他) (1)学会シンポジウム(開催校 及び ジェンダー研究会主催)『心理学の理論をジェンダーの視点から読み解く 何がどう問題か』		2008年 9月	日本心理学会第72回大会(北海道大学)	表題「心理学の理論をジェンダーの視点から読み解く 何がどう問題か 」のもと、話題提供者4名、指定討論者2名の参加を得て開催。司会を務めた。発表論文集 S(17)